

東海ゴム工業 様

成功の鍵は、明確なビジョンと現地への敬意

ポーランド拠点設立と新システム導入の記録

2009年で創立80周年を迎える東海ゴム工業。世界でトップクラスのシェアを誇る自動車用防振ゴム・ホースを柱に、OA・IT関連機器、産業用資材と様々な分野に製品と技術を提供しています。積極的に海外展開を進めている同社では、世界8カ国に19の拠点を構え、現在、ポーランド、タイ、中国(天津、嘉興、広州)の5拠点でIFS Applicationsを利用。中でも、ポーランドにあるTRI(Poland)社は、2000年からIFS Applicationsを活用して、会計、販売物流等の業務を行っています。今回は、同社の設立時のメンバーでもある永合幹弥課長にお話を伺いました。


東海ゴム工業株式会社


小牧製作所・本社

ポーランド工場操業に向けてシステムを選定

ポーランドの南、ボルブロムという町にあるTRI(Poland)社。1999年に設立された同社は、製造から営業、技術機能まで備えた欧州における唯一の本格的な海外生産拠点として、ヨーロッパ全域の日系カーメーカーに自動車向けゴム製品を製造・販売しています。

設立当時、すでに一年半後の本格生産開始が決まっていました。操業に必要なあらゆるものを短期間で整備しなければならず、業務アプリケーションもそのひとつでした。システムの選定は、日本本社で行われ、5~6社の製品を検討。機能面や現地でのサポートなどを考慮し、IFS Poland社が提案した「IFS Applications」が選ばれました。

「1999年、IFS Polandの開発メンバーが無償で来日し、システム要件定義会議に参加してくれたり、我々がポーランドへ行ったときに受けた心のこもった対応や気遣いがとてもありがたく、彼らとなら一緒にやっていると確信しました」と永合課長は語っています。

本社 経理部 第一財務課
課長 永合様



TRI(Poland)社の皆さん

ビジネスの急成長にも新システムが柔軟に対応

システム稼動当初は、サーバーをIFS Poland社内に設置するなど、IFS Polandとはまさに二人三脚の状態でした。工場の立ち上げから数年は、売上が倍増を続けましたが、IFS Applicationsを導入したことで、こうした急激な成長や会計制度の変更にも迅速に対応できました。

また、ヨーロッパ各地に点在する顧客への納品も課題でした。当時はEU統一前だったため、場所によってはトラックで5日間かかることもあり、積送品も含む在庫管理が必須でした。IFS Applicationsでは在庫をリアルタイムに把握でき、会計とも連携していたので、原価計算や業績評価もスムーズに行えました。

「昨年、検収・出荷業務にバーコード導入したのですが、これによって業務の精度と効率が向上しました。設立当時は、十分な時間をかけてシステムの仕様を検討する余裕がありませんでしたが、今思えば

もっと効率的なやり方があったかもしれません」と、永合課長は当時を振り返ります。今では、日本への会計報告も、IFS Applicationsとの統合により、連結決算に必要なデータを本社へスムーズに送付することができます。

現地との繋がり、人材活用を重視

すべてに日本流を持ち込むのではなく、現地の人々をリスペクトし、時には意見が衝突することがあっても、議論を積み重ねながら、とにかく業務の標準化を徹底していく。それが、同社の方針でした。

従業員のモチベーションを高めるための工夫もしています。全従業員に対して、四半期ごとに業績説明会を開催し、品質向上に寄与した従業員を表彰する制度も設けています。

設立から9年。今では800人を超える社員がこの工場働き、うち日本人は1%以下、マネージャーレベルの過半数は現地の人で占められています。

同社では、市民イベントへの協賛や日本文化を広めるための支援など、地域住民との交流を深める活動も積極的に行っています。こうした地域密着型の姿勢と、実現すべき最終形を念頭に組織や機能を形作ってきた努力が同社を成功へと導いたに違いありません。

商品紹介

